

再発見 The Art of Refereeing (3)

第3章 2.首尾一貫の再読

レフリーがルール適用に当たって第一に要求されることは、レフリーの笛が首尾一貫して均一であることです。レフリーがこの美德が欠如しているということ程プレーヤーを怒らせるものはないのです。レフリー自身の心にルールとルールとの精神についての概念が全く明快に把握されていないとレフリングの仕事十分に達成することは誰でも出来ないのです。ハンドリング、オフサイド、スクラム、タックルとラインアウトに関わるルールの適用については均一性が特に必要です。レフリーは自分がプレーしていた時代にタックルした後にボールをプレーしていないのに罰せられ、全く同じ状況で他のプレーヤーがボールを離さなかったのに罰せられなかったのを見た経験があるだろう。

セットスクラムにおける程均一性が保たれ首尾一貫していることが必要なものではありません。スクラムのボールインとフッキングについては、スロワーがスクラムから一定距離離れることや、ボールを入れる速さや、ボールが地面に最初に付く時点とかは非常に細かく書かれています。それらは必然的に一つの流れの中のもので、例えばスクラムの中の足を動かしてもよい時機は、ボールの入り具合によって決まるものです。レフリーもプレーヤーも巻尺やその他の計測器具を持っているわけではありません。レフリーがボールの後ろを追ってスクラムの中に頭を突っ込む（それは無難なことではないが）わけにはいきません。それでレフリーはボールがトンネルに入れられるのを少し離れてみるという方法をとるのです。ルールの記述は細かくしヤードの距離とか中庸の速度となっています。ボールがどういう瞬間に、どの地点に付いたかなどの点についての最後の判断はレフリー個人的判断によるということは明白なのです。多くのレフリーの判断が全ての状況においてそれらの点に全く同じであるというようなことは奇跡的なことです。だから最大望めることは、個々のレフリーがゲームを通じて判断を首尾一貫したものに努力することです。それによりプレーヤーはレフリーにやり方に合してすることが出来るのです。言い換えればどの様にすればよいか分かり、そのように努めてすることです。それらの難しい点に均一なセンスある適用をすればレフリーはプレーヤーから信頼され、尊敬を容易に得るようになるだろう。

果敢に決断

ほとんどのプレーヤーはルールの語句の細かい部分について必ずしもそうではないかもしれないがルールの意図することについてかなりよい考えを持っています。だからレフリーの意図に疑問を持っていないと考えなさい。レフリーが躊躇することは一番間違いなくプレーヤーの信頼を破ることになるのです。あらゆる決定は果敢に与えられなければなりません。それは芝居がかったものであってはなりません、決定について疑いを持つことのないやり方でなくてはなりません。

有名なレフリーがゲーム後一杯飲んでる時に友人から次のような指摘を受けました。

「あなたはルールを知っていると信じられない」

レフリーは「私は知らない」と一旦同意して、

「私は知りません。私は笛を吹く時は正しいと信じていることを確信を持って吹いています」

と答えました。「確信を持って決定せよ」これは一つの大きな教訓です。最高のレフリーでさえ疑問を感じる瞬間があるものです。しかし彼は決してそれを表に出さないのです。

決定を告げることの重要性を述べましたが、笛を吹くときはいつでも短く理解出来るように反則の中身を告げなさい。レフリーがアドバンテージの有無を見るために笛を吹くのが遅れたらゲームを止めた上で「これこれでアドバンテージが無かった」ということを付け加えて言いなさい。

プレーヤーは大抵の場合ミスをしたことを許すだろう。プレーヤーが許すことが出来ないのは「どうしたらよいか分からない」という心境になったときです。そんな時プレーヤーはゲームにやる気がなくなり、投げやりになってしまうものです。プレー中止を命じる時、その理由を言うことは、プレーヤー達の中でブツブツ言うことを広げるのを防ぐことが出来るのです。

注意：本文は古い本の再読のため、ルール及び解釈は当時のものをそのまま使用しています